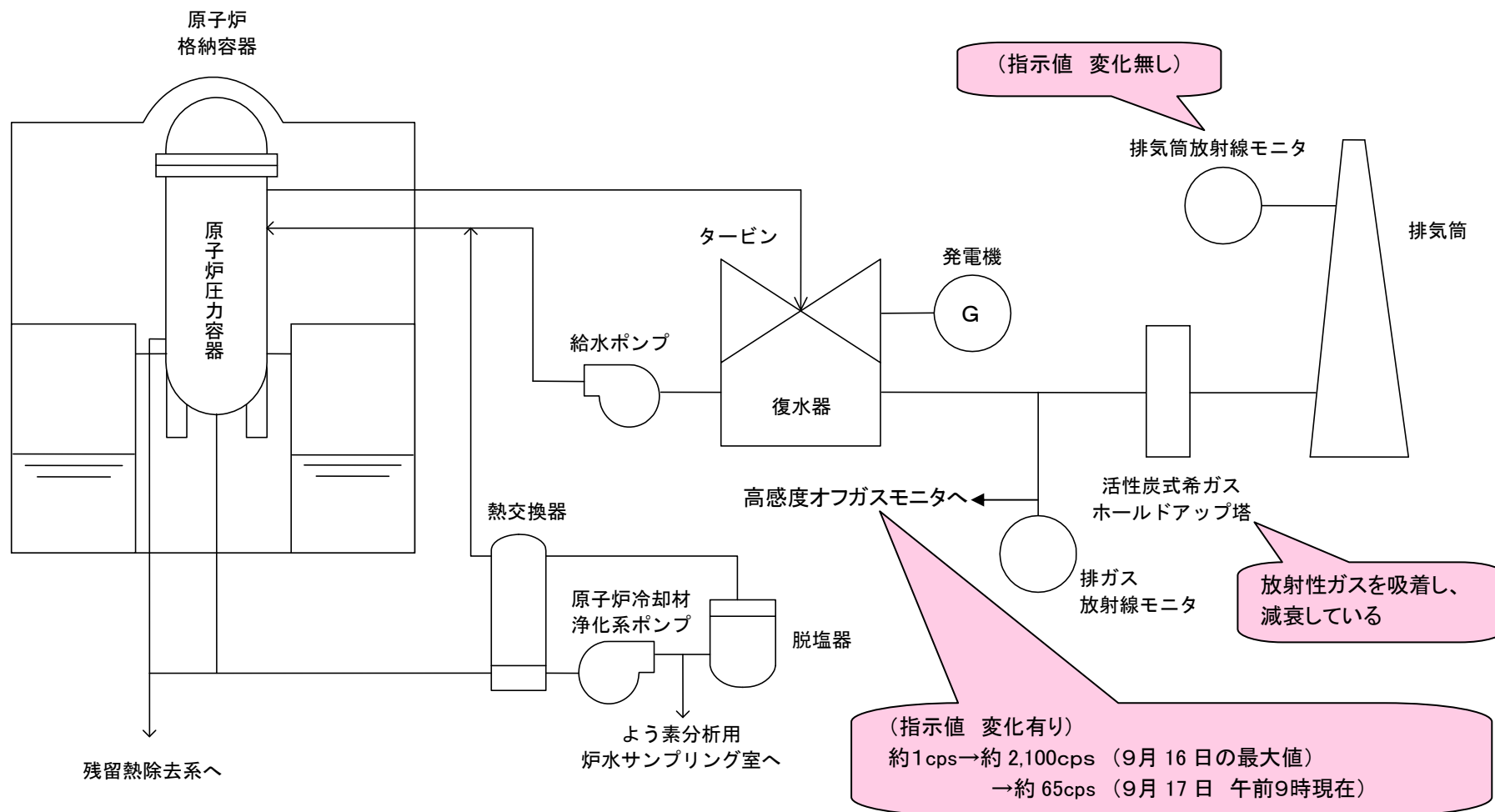


区分：Ⅲ（続報）

| 号機 | 7号機 |
|--------|--|
| 件名 | 気体廃棄物処理系の高感度オフガスモニタの指示値上昇に関する調査状況について |
| 不適合の概要 | <p>定格熱出力一定運転中の7号機において、平成22年9月10日午前0時12分頃、燃料棒から原子炉水への放射性物質の微少な漏えいを早期に検知するために気体廃棄物処理系^{*1}に設置した高感度オフガスモニタの指示値が、通常値約1cps^{*2}のところ1.8cpsに上昇したことから、警報が発生しました。</p> <p>排ガス放射線モニタ^{*3}の指示値に変動はないものの、高感度オフガスモニタの指示値は、午後3時時点で約27cpsと微増傾向にあり、原子炉内で漏えい燃料が発生した可能性が考えられることから、現在、関連パラメータの監視強化として、原子炉水中のヨウ素濃度および気体廃棄物処理系のキセノン133濃度の分析を1日1回、排ガス放射線モニタ指示値および排気筒モニタ指示値の確認を1時間に1回実施しております。</p> <p>また、現在、公表している原子炉水の分析結果や、排ガス放射線モニタの指示値に加え、高感度オフガスモニタの指示値についても、今後、毎日午後4時に発電所のホームページで公表してまいります。</p> <p style="text-align: center;">（公表区分Ⅲ：平成22年9月10日お知らせ済み）</p> <p>その後、関連パラメータの監視強化を行いながら運転を継続しておりましたが、9月16日午後9時30分頃から、高感度オフガスモニタの指示値に有意な上昇（最大約2,100cps）が確認されたことから、同日午後10時43分に、原子炉内で漏えい燃料が発生しガス状の放射性物質が原子炉水中に漏れ出したものと判断しました。</p> <p>このため、放射性物質が漏れ出した燃料集合体の位置の特定に関する調査を行うこととし、同日午後11時30分から、プラント出力を約72万キロワットまで降下させる操作を開始しました。</p> <p>その後、9月17日午前3時35分から、原子炉が安定した状態で制御棒を操作し、放射性物質が漏れ出した燃料集合体の位置の特定に関する調査を開始しております。</p> <p>この燃料集合体の位置の特定作業は、1週間程度を予定しております。</p> <p>また、ガス状の放射性物質については、気体廃棄物処理系で減衰処理されており、排気筒モニタ^{*4}やモニタリングポストの指示値に変動は見られないことから、外部への放射能の影響はありません。</p> |

| | | |
|----------------------|--|---|
| | <p>* 1 気体廃棄物処理系 復水器内の真空維持のため、復水器内で凝縮できなかった放射性ガスを抽出して減衰処理し、排気筒から放出するための系統。</p> <p>* 2 cps（カウント・パー・セカンド） 単位時間（秒）あたりに測定される放射線の数。</p> <p>* 3 排ガス放射線モニタ 高感度オフガスモニタと同様に、放射性ガスを連続的に監視するために、気体廃棄物処理系に設置されたモニタ。</p> <p>* 4 排気筒モニタ 排気筒から、外部に排気する空気中のガス状の放射性物質を監視するために設置されたモニタ。</p> | |
| <p>安全上の重要度／損傷の程度</p> | <p><安全上の重要度></p> <p>安全上重要な機器等 / その他設備</p> | <p><損傷の程度></p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p> |
| <p>対応状況</p> | <p>当該燃料集合体の位置が特定された場合は、近傍の制御棒を全挿入状態として、放射性物質の原子炉水への漏えいを抑制した上で、再びプラント出力を定格熱出力に戻すこととしております。</p> | |



7号機系統概略図